

# 台湾Asia Pacific Regional Forum等参加

2022年9月15日

国連CEFACT観光部会  
鈴木耀夫報告

# 報告内容

1. 初めに
2. Forumの概要
3. 台湾政府関係者との各種会議
4. Forum主催者(III及びCDR)事務所I訪問と意見交換
5. TT&L WGの開催
6. EPs Technical Artefacts の試行システムから本番システムの展開
7. STでの自己評価に関して鈴木からの提案
8. その他 (別途)

# 1. 初めに

1. 台湾がAFACTのPermanent Secretariatを2022年から引き受けることになったのを記念した行事が開催され、それに参加することの招待を受けた。
2. コロナの発生が日本のみならず世界的に大きく渡航は危惧されたが、日本も台湾も一定の条件を満たすときにはそれが緩和されていたのを利用した。
3. AFACTの主要メンバー国の参加も求められたが、物理的な参加は日本から私とインドから国連CEFACTのCoordinatorのSachin Mehta と同じく国連CEFACTのVice Chair であるTahseen Khanの3人であった。
4. Digital化の動きが強く意識されたが、その概要に関して以下に報告をする。

## 2. Forumの概要

1. フォーラム名称: Asia Pacific Regional Forum on Establishing Digital Economic Committee
2. フォーラム会場: International Convention Center of National Taiwan University Hospital
3. 出席者: 会場約100人、オンライン約50人

Audrey Tang: Digital Ministry を始めとした政府関係者、業界幹部、学者等に加えて新聞や放送等のマスコミ関係者

### 4. フォーラムの進行:

1) 会議に先立って中国の伝統楽器による台湾の歌に加えて日本(桜)、インド(建国記念日を祝してインド国歌)の歌が演奏。

2) AFACT代表国等からの祝辞のVideoが短時間であったが流された。

(前AFACT Permanent Secretary (イラン)、前幹事国(マレーシア)、今年の幹事国の日本からはJASTPROを代表して国連CEFACT日本委員会の会長、そして菅又AFACT技術委員会議長、T/T Domain関連で国連RDM技術チームのオランダのHeemskerk氏、TT&LWG関連でJTRECからは石原元理事長、田中TT&LWG副議長、板垣CEFACT STプロジェクトEditorのメッセージがあった。)

3) 主催者、来賓の挨拶: この中でDigital MinisterのAudrey Tangの挨拶があったのが特徴

4) 下記のPanelが2つ用意された。

One: The Altruism and Governance Value of Cross-border Data Exchange ( Moderator: Mr. Zhang-Ran Chen:)

Two: Technology Use for Cross-border Sustainable Tourism in the Post-Epidemic Era

Moderator: Mr. Sachin Mehta: Coordinator of T/T Domain

Speakers: 私, 戴さん, Ms. Monique Chen (Chairman of Sustainable Taiwan), Ms. Connie Chang (Vice President of Taiwan Convention and Exhibition Association, and General Manager of Golden Foundation Tours Group)

### 3. 台湾政府関係者との各種会議

下記のような面会の場が設定された。

1) 観光局と台湾観光協会 (Taiwan Visitors Association) の訪問

① 交通部観光局 (Chief Secretary 他多数) での意見交換

② 台湾観光協会 (Taiwan Visitors Association) (Secretary General他多数) での意見交換

EPsTAとSTの活動を紹介すると共に、AFACT (及びUN/CEFACT)

でのT/TDomainの活動に対する支援を要請すると共に、台湾の出席者 (戴さん他) からEPsTAの具体化は利用に対する支援を要請した。

反応は極めて好意的であった。

また今年の秋に東京で観光博があるので是非訪問して欲しいとのこと。

2) 經濟部国際貿易局 (副局長他)

AFACT及びUN/CEFACT活動で意見交換

3) 国家発展委員会 (National Development Council) (Deputy Director, Department of International Management )

8月15日のForumでのPanel One のModeratorを担当した人物 (Executive Yuan)

4) Digital Transformation Association (ChairmanでAmbassador-at-large)

## 4. Forum主催者(III及びCDRI)事務所訪問と意見交換

### 1) III(Institute for Information Industry)訪問と意見交換

President 他多数

① AFACT Permanent SecretariatとSecretaryを引き受けたと共に今回のForumの主な主催者。組織を挙げてAFACT対応を推進するという意欲が感じられた。

② 数年前にはJTRECとビジネス契約を持っていた法人組織

③ IIIの事業の説明と同法人が持つメタバース研究所(本年6月頃の設立)の見学  
日本のソニー等との技術協力があるとのこと。

旅行関係の展開では意味が出てくるのではと思われた。

### 2) CDRI(Commerce Development Research Institute)訪問と意見交換

Chairman of the Board (元国会議員で台南市長を経て現在)International 他多数

① 今回のForumのもう一方の主催者

② TT&L WGの議長であるAnthony Chien(International Digital Commerce Research Division)の所属組織

③ AFACTやUNCEFACTとの関係を持ちたいとの意気込みが感じられる

④ 設立は新しく10年以内である。

## 5. TT & L WGの開催

1) 戴さんの事務所 (VIP Travel) のオフィスで開催 (8月18日 (木) 15:00-17:00)

出席者: 下記の通り。

Sachin Mehta (Video Participation), Anthony Chien, Tung-hua Tai, Wan-chun Hsiung (PhD. Associate Professor, Department of Tourism & Leisure Management), Monique Chen (Chairwoman, Sustainable Travel Taiwan), Matt Jiang, Gary Lin, Frank Lo (III, Deputy General Secretary, AFACT Secretariat) それに私、(Ms. Connie Chang (General Manager, Golden Foundation Tours Corp. が参加予定であったが日本行きの日程と重なり欠席)

2) 議題と方向

① UN-CEFACT T/T DomainのProjectの活動と現状

a. EPs Projectの現状 (私から)

b. ST Projectの現状について (戴さん、Wan-chunさんから)

② EPsTAについての戴さんからの提案 (参照 次のページ)

基本的に賛同、各国でも検討する。

③ STでの自己評価に関して鈴木からの提案 (参照 資料)

ST Projectで、自己 (評価を実施するときに簡便さを考えて、そのやり方を少し変えることを鈴木の資料で説明。これに対しての意見交換が活発に行われた。今後更に台湾での検討をすすめたいとの戴さんのまとめ。

4) その他: 台湾ではT/T Domainに対して新たな参加者が動き始めてきている。

## 6. EPs Technical Artefacts の試行システムから本番システムの展開提案

戴さんより以下の提案があった。

- ①EPs TAのまとめを生かした活用を進めたい。
- ②台湾で所要の資金を確保してシステムを開発する。
- ③これをAFACTの参加国に無償で提供する。
- ④上手くいくかの試行を行い、問題が無ければ本番に移行する。
- ⑤このための打ち合わせを関係国でなるべく早くから進めたい。

システムの内容、システムの使用条件、各国の権利義務等

- ⑥（鈴木）戴さんはAPIとしての利用を意識している。

このためには現在のEPs TAを、新たに技術仕様となるAPI仕様に合わせる作業が求められる。これはEPs TAの第二期開発段階を要すると考えられる。



## 7. STでの自己評価に関して鈴木からの提案

先にSTプロジェクトの進め方について、国内検討会で鈴木から下記の意見を伝え検討を依頼していた。

当日の台湾での議論では、この内容に関して国内検討の資料そのものをこのままで提出。即Google翻訳の実施と画面表示ができ検討可能。個人の音声も画面表示で話している英語がスーパされた。

### A. 中込プロジェクトの進め方と課題

推進方法——1. UNSDGs (Goals & Targets) > 2. T/T Domainに関する項目の整理 > 3. 重点事項を考慮した分野別の行動プランの策定 > 4. 自己評価の実施 > 5. レベル3以下の場合には改善努力を

課題1. 重点事項(社会的包摂、DXの推進等4~5項目がまとめられている)——これらがどのように行動プランに組み入れられているのかが不明。

課題2. 自己評価で5つのレベル分けができているが、その具体的な内容が不明

### B. 鈴木からの提案

#### 提案の観点

提案1. 重点項目に向けて分野別のUNSDGsの整理ができないか(台湾会議の成果がある)。

上記推進方法で1, 2は変わらず 3で分野別、重要事項別にUNSDGsのGoalとTargetを整理する。

提案2. 重点項目を見直す。

例えば、a.地域開発を推進する b.地域に経済的な貢献をする c.環境を維持改善する d.地域住民の生活の質を向上する、そして地域文化の発展に寄与する 等の項目を設ける(この内容はよく検討する)

提案3. この時に成熟度を評価できるような実施項目に整理できないか。

目下整理した内容はレベル1~5の大きな区分で、具体的に何をしたら例えばレベル2から3に評価できるのかが不明である。これを明らかにできないか。